

## 1. 学校施設の長寿命化計画について

- ①目的 本計画は、「益田市公共施設等総合管理計画」を上位計画として下支えする計画と位置づけ、老朽化の進む学校施設の現状と課題を把握し、これまでの対処法的な事後保全型から計画的な予防保全型へと維持管理手法を転換することで、財政負担の軽減や平準化を図り、児童生徒が安全・安心に学校生活を送れるように建物の機能や設備を良好な状態に維持し、出来るだけ長く活用できるよう長期的な方針と具体的な整備方針を立てることを目的としている。
- ②計画期間 2021年度（令和3年度）～2061年度（令和43年度）※5年ごとに見直し
- ③対象施設 学校：23校（小学校15校 中学校8校） 学校給食共同調理場：2施設

## 2. 学校施設の目指すべき姿

- （1）安 全 性《安心・安全な施設》 安心・安全な施設であるとともに、避難場所となる役割を担っており、施設自体の耐震性・安全性に加え、避難場所として必要な機能・要素を備えておく必要がある。
- （2）快 適 性《機能・環境に配慮した施設》 児童・生徒にとって「学びの場」であり「生活の場」。誰もが利用できるようユニバーサルデザインに配慮した環境整備にも努める必要がある。
- （3）多様かつ高い公共機能を有する施設としての利活用《施設の集約化・多機能化》 既存施設の集約化・多機能化により、地域コミュニティの核とした整備の検討が必要。地域住民の生涯学習における拠点施設としての利活用も求められている。

## 3. 学校施設整備の基本的な考え方

- ①本計画により、建て替え時期を繰り延べ更新時期の集中化を避けることで財政負担の軽減化・平準化を図る。
- ②定期的な点検・診断を実施し、計画的な維持補修を行うことで施設を長く使用する。

## 4. 長寿命化の実施計画

今後5年間における施設整備費の概算額・・・> 2,362百万円（472百万円／1年）※1年間の実施可能なコスト上限を400百万円に抑える。

- 【今後5年の実施計画】
- ①「益田市学校施設整備計画」を踏まえ、未だ未耐震の施設を中心に改築事業を実施。
  - ②「老朽化に伴う学校トイレの改修計画」の基本的考え方を踏まえ、小学校から中学校へ計画的に改修実施。
  - ③長寿命化改修事業としては、劣化状況調査において、健全度がかなり低く5年以内に対応すべき施設を中心に実施。

## 5. 長寿命化計画の継続的運用方針

- ① 施設管理の向上化 光熱水費をはじめとする運営経費、工事履歴や劣化情報を適宜更新し、的確な計画を組めるよう主管課で一元管理する。
- ② 財政との連携 人口減少等により、ダイレクトに直面する財政面を考慮しながら、本計画を基本とした予算の範囲内で事業を行う。
- ③ 職員の意識改革 本市の現況、本計画の意義などを十分に理解し、経営的視点をもった総量の適正化や予防修繕型の維持管理への方向転換を図る。
- ④ フォローアップの実施 学校施設の劣化状況調査結果を反映して、本計画は必要に応じ随時見直しを図る。

